

帝京大学アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 帝京大学では、学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(実施体制)

- (2) 教育・学生に関する情報の収集・分析・評価は、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（学科・コース等）、授業科目のレベル別でそれぞれ実施する。
- (3) 機関レベルで（大学全体として）収集・分析・評価する情報については、「アセスメント・チェックリスト」の中で別に定める。
- (4) 教育課程レベル（学科・コース等）・授業科目レベルにて収集・分析・評価する情報、及び学生による自己評価の方針については、各学科・コース等の「アセスメント・ポリシー」の中でそれぞれ定める。
- (5) 各学科・コース等は、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価を担う主たる組織を明確にする。

(実施及び分析の支援)

- (6) 学長室は、「アセスメント・チェックリスト」記載の情報を全学的な視点で比較・確認する。

アセスメント・チェックリスト

データ	調査内容
科目数	修得目標ごとの科目設置状況
履修者数	修得目標ごとの履修実態
GPA	修得目標ごとの GPA
アクティブラーニング実施率	授業数と割合
授業評価アンケート	紐づく修得目標と授業内容との整合性、 授業外学修時間
修得目標に関する学生の自己評価	修得目標ごとの達成度評価
志願倍率・実質倍率・歩留まり率	学生数と割合
休学率・退学率	学生数と割合、休学・退学理由
留年率・進級率	学生数と割合
卒業率	学生数と割合
就職率・進学率・進路決定率	学生数と割合、就職先・職種等
国家試験合格率	学生数と割合
就職先企業等への卒業生の獲得技能に関する聴取結果	「全学の修得目標」の達成状況等

帝京大学医学部医学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 医学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	・入学試験成績（筆記・面接） ・TOEFL 成績 ・入学前学修 ・調査書等の記載内容 ・初年次プレイスメントテスト ・入学時調査	・GPA ・総合試験成績 ・留年率・進級率 ・学籍異動数と率（休学、退学、除籍） ・ポートフォリオ ・臨床実習評価 ・外部試験（模擬試験）成績 ・共用試験（CBT・Pre-CC OSCE）成績 ・在学生調査 ・学修行動調査 ・個人面談 ・課外活動状況	・GPA ・卒業試験成績 ・卒業者数、率 ・国家試験合格率 ・卒業時調査 ・学修成果達成状況 ・ポートフォリオ ・外部試験（模擬試験）成績 ・共用試験（Post-CC OSCE）成績 ・本学附属病院志望者数 ・卒業生調査 ・卒業生フォローアップ調査 ・研修病院指導者アンケート
授業 レベル	・プレイスメント試験成績	・成績評価 ・授業評価 ・科目評価 ・再試験該当学生数	・各科目試験成績と総合試験成績の比較

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、医学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績（実験・実習の成果物、定期試験の成績、総合試験の成績など）を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、各学年のガイダンスおよびホームルーム内に設ける。

帝京大学薬学部薬学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 薬学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	・各種入学試験 ・調査書 ・志望理由書に基づく面接 ・入学時プレイスメントテスト ・初年次休学者数 ・初年次退学者数 ・初年次転学部数	・修得単位数 (卒業時を100%とした単位 修得率) ・GPA ・各科目の成績評価 ・授業評価アンケート ・学修ポートフォリオ (学生の自己評価を含む) ・薬学共用試験結果 ・出席率 ・進級率 ・同一年度入学生の進級率 ・休学者数・休学率 ・留年者数・留年率 ・転学部者数・転学部率 ・退学者数・退学率 ・除籍者数・除籍率	・修得単位総数 ・GPA ・学修ポートフォリオ (学生の自己評価を含む) ・卒業研究 ・医療における実践力 ・卒業生数・率 ・国家試験合格者数・率 ・就職者数・率 ・就職先アンケート
授業 レベル		・成績評価 ・学生授業評価アンケート ・出席率 ・授業実施時間 ・単位修得率 ・学修ポートフォリオ	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、薬学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に対応する科目の成績、及び学生自身が記録した学修記録・プロダクト、さらに1～3年次については学年末総合評価試験結果を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
- 1年次：薬学への招待 2
 - 2年次：製剤学
 - 3年次：毒性学
 - 4年次：薬学演習
 - 5年次：卒業研究
 - 6年次：薬学総合講義 4

帝京大学経済学部経済学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 経済学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、経済学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：基礎演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：産業・企業演習Ⅰ・Ⅱ、総合経済Ⅰ・Ⅱ、経済学特殊講義Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ

帝京大学経済学部国際経済学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 国際経済学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、国際経済学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - ・ 1 年次：ライフデザイン演習 I・II
 - ・ 2 年次：基礎演習 I・II
 - ・ 3 年次：演習 I・II
 - ・ 4 年次：産業・企業演習 I・II、総合国際経済 I・II、国際経済学特殊講義 A I・II、国際経済学特殊講義 B I・II、卒業論文

帝京大学経済学部地域経済学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 地域経済学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 基礎学力テスト - 新入生アンケート	- GPA - 修得目標に関する自己評価 - 学修行動調査 - 休学・留年・退学者数・率	- GPA - 修得目標に関する自己評価 - 卒業時アンケート - 卒業者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 履修者数 - 授業に関するアンケート - 授業外学修時間 - 成績(S,A,B,C,D)人数分布	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、地域経済学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
- 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：演習Ⅲ・Ⅳ
 - 4年次：演習Ⅴ

帝京大学経済学部経営学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 経営学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 希望コース調査	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、経営学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - ・ 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 2年次：基礎演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 3年次：演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 4年次：産業・企業演習Ⅰ・Ⅱ、総合経営Ⅰ・Ⅱ、経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ

帝京大学経済学部観光経営学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 観光経営学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、観光経営学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - ・ 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 2年次：基礎演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 3年次：演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 4年次：産業・企業演習Ⅰ・Ⅱ、総合観光経営Ⅰ・Ⅱ、観光経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ
卒業論文Ⅰ・Ⅱ

帝京大学法学部法律学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 法律学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 希望コース調査	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、法律学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：基礎教養演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：演習Ⅲ・Ⅳ

帝京大学法学部政治学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 政治学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 希望コース調査	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、政治学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：基礎教養演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：演習Ⅲ・Ⅳ

帝京大学文学部日本文化学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 日本文化学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	・ 帝京大学の志望順位 (入学時調査)	・ GPA ・ 学生生活満足度 (学修行動調査) ・ 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) ・ 休学・留年・退学者数・率 ・ 課外活動記録 (学修ポートフォリオ)	・ GPA ・ 学生生活満足度 (学修行動調査) ・ 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) ・ 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) ・ 就職者数・率
授業 レベル		・ 出席率 ・ 授業評価アンケート	・ 出席率 ・ 授業評価アンケート

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、日本文化学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：日本文化基礎演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：演習A（選択必修科目）
 - 4年次：演習B（選択必修科目）

帝京大学文学部史学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 史学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 希望コース調査	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 希望コース詳細調査 (11月ころ、1年次、2年次、3年次に各コースの次年度「史籍講読・実習」・「演習」・「卒論」履修方法のガイダンスを史学科教員で行い、コース選択の実情の調査) - 履修歴 (11月ころ、3年次に各コースの次年度「卒論」履修方法のガイダンスを史学科教員で行い、履修歴を調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率

授業 レベル		・ 出席率 ・ 授業評価アンケート ・ 授業外学修時間（LMS）	・ 出席率 ・ 授業評価アンケート ・ 授業外学修時間（LMS） ・ 卒業論文
-----------	--	--	--

（学生による自己評価の方針）

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、史学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
- ・ 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 2年次：人文演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 3年次：演習科目
 - ・ 4年次：卒業論文Ⅰ・Ⅱ、演習科目（卒論代替科目）

帝京大学文学部社会学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 社会学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 社会学科1年生質問紙調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS) - ゼミ論、卒業論文

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、社会科学では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：社会学演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：社会学演習Ⅲ・Ⅳ

帝京大学文学部心理学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 心理学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 入学前課題提出・率	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポートフォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 公認心理師プログラムへの参加 - 心理学科_学習習熟度調査 (自己点検・自己評価) - 心理学検定	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率 - 認定心理士(心理調査)資格取得 - 心理学検定
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間(LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間(LMS) - 卒業論文

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、心理学では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：心理学研究演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：心理学研究演習Ⅲ・Ⅳ

帝京大学外国語学部外国語学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 外国語学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 語学検定試験 - DP 認知度アンケート - 新入生アンケート	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 語学検定試験 - DP 認知度アンケート - GCP 帰国後アンケート	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 語学検定試験 - 卒業時 DP 自己評価アンケート
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、外国語学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の学修状況を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - ・ 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・ 2年次：プレセミナー

(英語コース)

- ・ 3年次：演習科目 A（選択必修科目）
- ・ 4年次：演習科目 B（選択必修科目）、卒業論文・卒業制作Ⅰ・Ⅱ

(ドイツ、フランス、スペイン、中国、コリア語コース)

- ・ 3年次：セミナーⅠ・Ⅱ
- ・ 4年次：卒業セミナーⅠ・Ⅱ、卒業論文・卒業制作Ⅰ・Ⅱ

帝京大学外国語学部国際日本学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 国際日本学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 語学検定試験 - DP 認知度アンケート	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 語学検定試験 - DP 認知度アンケート - 語学・文化研修後アンケート	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 語学検定試験 - 卒業時 DP 自己評価アンケート
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、国際日本学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の学修状況を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1 年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2 年次：日本語コミュニケーションⅠ
 - 3 年次：国際日本学セミナーⅠ・Ⅱ
 - 4 年次：卒業セミナーⅠ・Ⅱ、卒業論文・卒業制作Ⅰ・Ⅱ

帝京大学教育学部教育文化学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 教育文化学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 (教育学部学生生活実態調査または入試グループ提供データ) - 帝京大学の志望順位 (教育学部学生生活実態調査または入学時調査)	- GPA - 学生生活満足度 (教育学部学生生活実態調査または学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 修得目標の達成状況に関する自己評価(学修ポートフォリオまたは教育学部学生生活実態調査) - 休学・留年・退学者数・率	- GPA - 学生生活満足度 (教育学部学生生活実態調査または学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 修得目標の達成状況に関する自己評価(学修ポートフォリオまたは教育学部学生生活実態調査) - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート	- 出席率 - 授業評価アンケート

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、教育文化学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：教育研究リテラシーⅠ・Ⅱ
 - 3年次：教育学演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：卒業研究Ⅰ・Ⅱ

帝京大学教育学部初等教育学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 初等教育学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 (教育学部学生生活実態調査または入試グループ提供データ) - 帝京大学の志望順位 (教育学部学生生活実態調査または入学時調査)	- GPA - 学生生活満足度 (教育学部学生生活実態調査または学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 修得目標の達成状況に関する自己評価(学修ポートフォリオまたは教育学部学生生活実態調査) - 休学・留年・退学者数・率	- GPA - 学生生活満足度 (教育学部学生生活実態調査または学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 修得目標の達成状況に関する自己評価(学修ポートフォリオまたは教育学部学生生活実態調査) - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート	- 出席率 - 授業評価アンケート

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、初等教育学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：教育研究リテラシーⅠ・Ⅱ
 - 3年次：教育学演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：卒業研究Ⅰ・Ⅱ

帝京大学理工学部総合理工学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 総合理工学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 基礎学力テスト - 新入生アンケート	- GPA - 修得目標に関する自己評価 - 学修行動調査 - 休学・留年・退学者数・率	- GPA - 修得目標に関する自己評価 - 卒業時アンケート - 卒業者数・率 - 就職者数・率 - 大学院進学者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 履修者数 - 授業に関するアンケート - 授業外学修時間 - 成績(S,A,B,C,D)人数分布	卒業研究

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、総合理工学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
- 1年次：ライフデザイン 1、2
 - 2年次：ライフデザイン 3、4
 - 3年次：ライフデザイン 5、6
 - 4年次：卒業研究

帝京大学理工学部データサイエンス学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) データサイエンス学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 基礎学力テスト - 新入生アンケート	- GPA - 修得目標に関する自己評価 - 学修行動調査 - 休学・留年・退学者数・率	- GPA - 修得目標に関する自己評価 - 卒業時アンケート - 卒業者数・率 - 就職者数・率 - 大学院進学者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 履修者数 - 授業に関するアンケート - 授業外学修時間 - 成績(S,A,B,C,D)人数分布	卒業研究

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、データサイエンス学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
- 1年次：ライフデザイン 1、2
 - 2年次：ライフデザイン 3、4
 - 3年次：ライフデザイン 5、6
 - 4年次：卒業研究

帝京大学理工学部情報科学科通信教育課程アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 情報科学科通信教育課程では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	・ 新入生アンケート	・ GPA ・ 修得科目に関する自己評価 ・ 学修行動調査 ・ 休学・留年・退学者数・率	・ GPA ・ 修得科目に関する自己評価 ・ 卒業時アンケート ・ 卒業者数・率
授業 レベル		・ 履修者数 ・ 授業に関するアンケート ・ 成績(S,A,B,C,D)人数分布	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、情報科学科通信教育課程では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施をLMSのコース内で呼びかける。

帝京大学医療技術学部視能矯正学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 視能矯正学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入学試験成績（筆記・面接） - 入学前学修（基礎数学・生物） - 初年度英語クラス分テスト - 入学時調査	- 修得単位数（単位修得率） - GPA - 科目の成績評価 - 授業評価アンケート - カリキュラムアンケート - 臨床実習評価アンケート - 学修行動調査（学生生活満足度） - 進級時個別面談 - 進級者数・率、留年者数・率 - 学籍異動者数・率（休学・退学・除籍・転籍） - 獲得技能に関する自己評価(学修ポートフォリオ) - 課外活動状況 - 就職希望調査 - 履修歴 - ガイドラインに沿った評価（自己評価・教員評価）	- 卒業要件（修得総単位数） - GPA - 学位授与数（卒業生数・率） - 資格取得者数・率（国家試験合格者数・率） - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率 - 卒業生アンケート - 卒業後アンケート - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポートフォリオ) - 獲得技能に関する自己評価（学修ポートフォリオ） - 就職活動に関する事後調査
授業 レベル		- 各科目の成績評価 - 定期試験結果（レポート含む） - 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間（LMS）	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、視能矯正学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - ・ 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - ・ 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ
 - ・ 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ
 - ・ 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ

帝京大学医療技術学部看護学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 看護学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	・入学試験成績（筆記・面接） ・入学前学修 ・初年次英語クラス分け試験 ・入学時調査	・修得単位数（単位修得率） ・GPA ・科目の成績評価 ・外部試験結果（国家試験模試） ・授業評価アンケート ・カリキュラムアンケート ・臨地実習評価アンケート ・学修行動調査 ・進級時個別面談 ・進級者数・率、留年者数・率 ・学籍異動者数・率（休学、退学、除籍、転籍） ・保健師選択コース希望者数 ・海外研修プログラム参加者数と成果 ・DP ルーブリック評価（学修ポートフォリオ）	・卒業要件（修得総単位数） ・GPA ・学位授与数（卒業生数・率） ・資格取得者数・率（国家試験合格者数・率） ・大学院進学等者数・率 ・就職者数・率 ・卒業生アンケート ・卒業後アンケート ・履修歴 ・DP ルーブリック評価（学修ポートフォリオ）
授業 レベル		・各科目の成績評価 ・定期試験結果（レポート含む） ・出席率 ・授業評価アンケート	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、看護学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ
 - 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ
 - 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ

帝京大学医療技術学部診療放射線学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 診療放射線学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入学試験成績(筆記・面接) - 入学前学修 - 初年次英語クラス分けテスト - 入学時調査	- 修得単位数(単位修得率) - GPA - 科目の成績評価 - 外部試験結果(国家試験模試) - 放射線取扱主任者試験の受験者数・合格率 - 授業評価アンケート - カリキュラムアンケート - 学修行動調査 - 進級時個別面接 - 進級数・率、留年数・率 - 学籍異動数・率(休学・退学・除籍・転籍) - 海外研修プログラム参加者数と成果 - 獲得技能に関する自己評価(学修ポートフォリオ) - 課外活動記録(学修ポートフォリオ)	- 卒業要件(修得総単位数) - GPA - 学位授与数(卒業生数・率) - 資格取得者数・率(国家試験合格者数・率) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率 - 卒業生アンケート - 卒業後アンケート - 獲得技能に関する自己評価(学修ポートフォリオ) - 課外活動記録(学修ポートフォリオ)
授業 レベル		- 各科目の成績評価 - 定期試験結果(レポート含む) - 卒業試験の成績 - 出席率 - 授業評価アンケート - 補講実施時の成績評価	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、診療放射線学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ
 - 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ
 - 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ

帝京大学医療技術学部臨床検査学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 臨床検査学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入学試験成績（筆記・面接） - 入学前学修 - 初年次英語クラス分けテスト - 入学時調査	- 修得単位数（単位修得率） - GPA - 科目の成績評価 - 外部試験結果（国家試験模試） - 授業評価アンケート - カリキュラムアンケート - 臨地実習評価アンケート - 学修行動調査 - 進級時個別面接 - 進級者数・率、留年者数・率 - 学籍異動数・率（休学・退学・除籍・転籍） - 海外研修プログラム参加者数と成果 - 獲得技能に関する自己評価(学修ポートフォリオ) - 課外活動記録(学修ポートフォリオ)	- 卒業要件（修得総単位数） - GPA - 学位授与数（卒業者数・率） - 資格取得者数・率（国家試験合格者数・率） - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率 - 卒業生アンケート - 卒業後アンケート - 獲得技能に関する自己評価(学修ポートフォリオ) - 課外活動記録(学修ポートフォリオ)
授業 レベル		- 各科目の成績評価 - 定期試験結果（レポート含む） - 出席率 - 授業評価アンケート	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、臨床検査学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ
 - 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ
 - 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ

帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科

健康スポーツコース・トップアスリートコース アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) スポーツ医療学科健康スポーツコース・トップアスリートコースでは以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	・入学試験成績（筆記・面接） ・入学前学修 ・入学時調査 ・調査書等の記載内容 ・初年次英語クラス分けテスト ・資格・免許の取得に対する意識調査 ・汎用的能力測定の「ラインズ SPI」	・修得単位数（単位修得率） ・GPA ・科目の成績評価 ・授業評価アンケート ・学生生活満足度（学修行動調査） ・資格・免許の取得に対する意識調査 ・学籍異動者数・率（休学・退学・除籍・転籍） ・汎用的能力測定の「ラインズ SPI」 ・修得目標の達成度に関する自己評価	・卒業要件（修得総単位数） ・GPA ・学位授与数（卒業者数・率） ・資格取得（アスレチックトレーナー資格、健康運動指導士資格、中学校・高等学校保健体育教員、養護教諭、第一種衛生管理者資格） ・大学院への進学率 ・就職者数・率 ・資格・免許を生かした領域への就業率 ・卒業時調査 ・学生生活満足度（学修行動調査） ・修得目標の達成度に関する自己評価
授業 レベル		・各科目の成績評価（講義・演習・実技） ・定期試験（レポートも含む） ・出席率 ・授業評価アンケート	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、スポーツ医療学科健康スポーツコース・トップアスリートコースでは、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
 - 2年次：基礎演習Ⅰ・Ⅱ
 - 3年次：応用演習Ⅰ・Ⅱ
 - 4年次：応用演習Ⅲ・Ⅳ

帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コースアセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) スポーツ医療学科救急救命士コースでは以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入学試験成績（筆記・面接） - 入学前学修 - 初年次英語クラス分けテスト - 入学時個別面接調査	- 修得単位数（単位修得率） - GPA - 科目の成績評価 - 外部試験結果（国家試験模試） - 授業評価アンケート - カリキュラムアンケート - 臨床実習評価アンケート - 学修行動調査 - 進級時個別面接 - 進級者数・率、留年者数・率 - 学籍異動数・率（休学・退学・除籍・転籍） - 学修ポートフォリオシステム	- 卒業要件（修得総単位数） - GPA - 学位授与数（卒業生数・率） - 資格取得者数・率（国家試験合格者数・率） - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率（就職種別就職率） - 卒業生アンケート - 卒業後アンケート
授業 レベル		- 各科目の成績評価（講義・実習） - 定期試験結果（レポート含む） - 出席率 - 授業評価アンケート	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、スポーツ医療学科救急救命士コースでは、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ、臨床実習Ⅱ
 - 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ、臨床実習Ⅲ
 - 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ、救急救命特論Ⅰ・Ⅱ

帝京大学医療技術学部柔道整復学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 柔道整復学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づき取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	・入学試験成績（筆記・面接） ・入学前学修 ・新入生アンケート ・基礎学力テスト	・修得単位数(学修ポートフォリオ) ・GPA ・科目の成績評価 ・授業に関するアンケート ・学修行動調査 ・進級時個別面接 ・進級者数・率、留年者数・率 ・学籍異動者数・率（休学・退学・除籍・転籍） ・修得目標に関する自己評価 ・課外活動記録 ・履修者数	・卒業要件（修得総単位数） ・GPA ・卒業者数・率 ・資格取得者数・率（国家試験合格者数・率） ・大学院進学者数・率 ・就職者数・率 ・履修者数 ・課外活動記録(学修ポートフォリオ) ・修得目標に関する自己評価 ・就職活動に関する事後調査 ・外部試験結果（国家試験模試） ・卒業時アンケート
授業 レベル		・各科目の成績評価 ・定期試験結果（レポート含む） ・出席率 ・授業に関するアンケート ・授業外学修時間 ・成績（S,A,B,C,D）人数分布	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、柔道整復学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - ・ 1 年次：ライフデザイン演習 A1・2
 - ・ 2 年次：ライフデザイン演習 B1・2
 - ・ 3 年次：ライフデザイン演習 C1・2
 - ・ 4 年次：ライフデザイン演習 D1・2

帝京大学福岡医療技術学部理学療法学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 理学療法学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	入試形態	- GPA - 学修行動調査 - 休学率・退学率 - 留年率・進級率 - 単位取得状況に関する自己評価 - 到達度確認テスト - 一人当たりの単位未取得科目数 - 基礎理学療法学演習Ⅰ試験 - 基礎理学療法学演習Ⅱ試験 - 基礎理学療法学演習Ⅲ試験 - 臨床実習Ⅰ成績 - 臨床実習Ⅱ成績	- 就職者数・率 - 卒業時アンケート - 卒業後アンケート - 卒業率 - 国家試験合格率 - 理学療法学総合演習試験 - 臨床実習Ⅲ成績
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 定期試験 - ループリック得点（実技・レポート・課題など） - 小テスト - 単位未取得者数	

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、理学療法学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：基礎理学療法学演習Ⅰ
 - 2年次：基礎理学療法学演習Ⅱ
 - 3年次：基礎理学療法学演習Ⅲ
 - 4年次：理学療法学総合演習

帝京大学福岡医療技術学部作業療法学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 作業療法学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 希望コース調査 - 入学前課題 - プレイスメントテスト	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - PROG 点数 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS) - 小テスト (形成的評価) - 到達度確認テスト (総括的 評価)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS) - 卒業論文

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、作業療法学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：基礎作業療法学演習
 - 2年次：学年ゼミ
 - 3年次：学年ゼミ
 - 4年次：総合作業療法学演習

帝京大学福岡医療技術学部看護学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 看護学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 希望コース調査 - 入学前課題	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 履修歴 - 課外活動記録(学修ポート フォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - PROG 点数 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 到達度確認テスト	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 履修歴 - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 就職者数・率 - 国家試験自己採点結果
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS)	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外学修時間 (LMS) - 卒業論文

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、看護学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ
 - 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ
 - 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ

帝京大学福岡医療技術学部診療放射線学科アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 診療放射線学科では以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入試形態 - 帝京大学の志望順位 (入学時調査) - 入学前課題	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 学生のキャリア志向 (就職希望調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 休学・留年・退学者数・率 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ)	- GPA - 学生生活満足度 (学修行動調査) - 課外活動記録 (学修ポートフォリオ) - 就職活動に関する事後調査 - 獲得技能に関する自己評価 (学修ポートフォリオ) - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率 - 国家試験の合格者数・率
授業 レベル	プレイスメント・アチーブメントテスト	- 出席率 - 授業評価アンケート - 到達度確認テスト - 模試試験	- 出席率 - 授業評価アンケート - 卒業研究発表・卒業論文

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、診療放射線学科では、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ
 - 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ
 - 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ

帝京大学福岡医療技術学部医療技術学科救急救命士コース

アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 医療技術学科救急救命士コースでは以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
教育課程 レベル	- 入学前課題 - アチーブメントテスト、 プレイスメントテスト - アセスメントシート	- GPA - 就職希望調査 - 学修ポートフォリオ - アセスメントシート	- GPA - 学内模擬試験 - 学修ポートフォリオ - 内定率（就職状況） - 卒業生アンケート
授業 レベル	入学前課題等における効果 確認試験	- 授業評価アンケート - 授業の出席率 実習・演習ルーブリック スキルチェック	授業評価アンケート

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、医療技術学科救急救命士コースでは、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - ・1年次：救急処置実習Ⅰ、ライフデザイン演習Ⅰ
 - ・2年次：救急処置実習Ⅱ、ライフデザイン演習Ⅱ
 - ・3年次：救急処置実習Ⅲ、救急処置実習Ⅳ、ライフデザイン演習Ⅲ
 - ・4年次：救急処置実習Ⅶ、ライフデザイン演習Ⅳ

帝京大学福岡医療技術学部医療技術学科臨床工学コース

アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 学生の修得目標の到達度を高めるために、教育・学生に関する情報の収集・分析・評価に係る方針、及び学生による自己評価の方針をアセスメント・ポリシーに定める。

(学修成果の確認・教育の改善のために学科として収集・分析・評価する情報)

- (2) 医療技術学科臨床工学コースでは以下の情報を用いて、学生の学修成果を確認し、修得目標・3つのポリシーに基づく取り組みの検証及び教育の改善に係る意思決定に活用する。

	入学前・入学直後	在学中 (1 学年後期末～4 年前期末)	卒業時・卒業後 (4 学年後期)
教育課程 レベル	- 基礎能力の判断材料として入試区分を参考 - 総合型選抜 - 公募推薦 - 指定校推薦 - 一般入試 - 学部内の志望順位を参考 - 第一志望 - 第二志望 - 生物学を基本とした臨床工学基礎演習 I で評価	- GPA の評価 - 国家試験合格レベルの評価資料として - 模擬試験成績の評価 - ME2 種検定合格者数・率 - MDIC 検定合格者数・率 - 心電図検定合格者数・率 - 課外活動記録 - ボランティア活動 - 学会・研究会参加 - 学外研修等 - 休学・留年・退学者数・率	- GPA の評価 - 学生生活満足度 - 課外活動記録 - ボランティア活動 - 学会・研究会参加 - 学外研修等 - 獲得技能・資格取得等に関する自己評価 - 大学院進学者数・率 - 就職者数・率 - 国家試験合格者数・率
授業 レベル		- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外自己学修時間	- 出席率 - 授業評価アンケート - 授業外自己学修時間

(学生による自己評価の方針)

- (3) 修得目標の達成状況を学生自身が把握し、学修の振り返り及びその改善に活用するために、医療技術学科臨床工学コースでは、学生による自己評価の方針として以下のとおり定める。
- (4) 各年次において、学生は学修ポートフォリオ上で、それぞれの修得目標に紐づく授業科目の成績を参照して修得目標の達成度に関する自己評価を実施する。また、合わせて、その時点までの学修の振り返りと学修目標・学修計画の修正を行う。
- (5) 前項の目的のために、学修達成度の自己評価と学修の振り返りについて説明し、学生に実施を呼びかける時間を、以下の科目内に設ける。
 - 1年次：ライフデザイン演習Ⅰ
 - 2年次：ライフデザイン演習Ⅱ
 - 3年次：ライフデザイン演習Ⅲ
 - 4年次：ライフデザイン演習Ⅳ